

株式会社デンソー

〒448-8661 愛知県刈谷市昭和町1-1
Tel 0566-25-5511 (案内)
<https://www.denso.com/jp/ja/>
<https://www.denso.com/global/en/>

日本サイト



グローバル
サイト



統合報告書



公式
Facebook



公式
Instagram



地域統括会社

北米

DENSO INTERNATIONAL AMERICA, INC.

24777 Denso Drive, Southfield Michigan
48033 U.S.A.
Tel +1-248-350-7500
<https://www.denso.com/us-ca/en/>

アジア

DENSO INTERNATIONAL ASIA CO., LTD.

888 Moo 1 Bangna-Trad Rd. KM.27.5, T.Bangbo,
A Bangbo, Samutprakarn 10560 Thailand
Tel +66-2-315-9500
<https://www.denso.com/th/en/>

DENSO INTERNATIONAL ASIA PTE., LTD.

51 Science Park Road, #01-19 The Aries,
Science Park II, 117586, Singapore
Tel +65-67768268
<https://www.denso.com/sg/en/>

インド

DENSO INTERNATIONAL INDIA PVT. LTD.

Plot No.3, Sector-3, IMT Manesar, Gurgaon,
Haryana-122052, India
Tel +91-124-4803200
<https://www.denso.com/in/en/>

欧州

DENSO INTERNATIONAL EUROPE B.V.

World Trade Center, Tower I, 4th Floor Strawinskylaan 1865,
1077 XX, Amsterdam, The Netherlands
Tel +31-294-493493
<https://www.denso.com/nl/en/>

中国

DENSO (CHINA) INVESTMENT CO., LTD.

Room No. 518, The Beijing Fortune Building,
No. 5 Dong San Huan Bei Lu,
Chaoyang District, Beijing, 100004, China
Tel +86-10-6590-8337
<https://www.denso.com/cn/zh/>

デンソーは、世界共通目標であるSDGsの達成に取り組んでいます。



DENSO

Crafting the Core

会社案内



ZERO

「環境」と「安心」の取り組みによって、社会から共感され、すべての人に笑顔広がる未来を届けます。



究極のゼロの実現、そしてモビリティ分野だけでなく社会全体へ貢献すべく、新たな価値の創造に挑戦します。

「環境」「安心」領域での価値創造を通じて、笑顔あふれる未来を届けたい。

この使命のもと、「環境」領域では「カーボンニュートラルな社会」の実現に向け、工場での生産活動だけでなくお届けした製品まで踏み込んで、CO₂の排出と吸収でプラスマイナス「ゼロ」を、「安心」領域では「交通事故死者ゼロ」の世界の実現を、いずれの領域も究極の「ゼロ」を目指します。

また、環境問題や資源不足など地球規模の課題が一層深刻化する中、循環型社会の実現に向け「モビリティ」から「社会全体」への貢献に広げて価値を届けていくことが私たちの新たな使命であり、モビリティの価値向上に加え、モビリティ以外の領域での新たな事業開拓にも果敢に挑戦していきます。

これからの社会は、クルマがさらに高度化し、クルマと人、クルマと社会が多様な形でつながっていくため、これまで以上に多くの技術を組み合わせ、スピード感を持って、新たな製品やサービスを生み出していく必要があります。私たちは、変化の時代を力強く生き抜いていく会社へと進化し、多くの皆さまと共に新たな価値を創造し続け、「循環」の輪をモビリティから社会全体に広がっていきます。

代表取締役社長 林新之助

DENSO at a Glance

デンソー早わかり

Past

これまでの変遷

経営基盤/経営方針

1949年の創業以来、品質のデンソーとして経営基盤を固めつつ、長期方針を羅針盤に経営の舵取りを実施

研究開発/モノづくり

常に将来を見据えて研究開発に努めるとともに、モノづくりの力を磨き続けることで、不可能を可能に

グローバル展開

お客さまのニーズに応えるため早くから世界各国に進出し、生産拠点だけでなく、R&D拠点多くの国で展開

1949



トヨタ自動車工業から分離独立し、日本電装株式会社を設立

1953



ドイツ・ロバートボッシュ社と電装品に関する技術提携契約を締結
世界に通用する製品づくりを目指し、社外からも積極的に技術を学ぶ。

1954



技能者養成所を開設
「モノづくりはヒトづくり」「技術と技能の両輪」の思想は、今日にも受け継がれる。

1968



IC研究室を開設
将来的に自動車部品が電子制御化されることを見越し、早くから社内でICの研究開発を行う。電子関連製品は、現在のデンソーの主力製品の一つ。

1966



米国にシカゴ営業所、ロサンゼルス出張所を開設
海外初の営業所の設立は、貿易の自由化など、世界の潮流を見越しての対応。

1972



初の海外生産会社であるニッポンデンソー・オーストラリア、ニッポンデンソー・タイランドを設立
お客さまのニーズに応えるため、世界各地のお客さまの近くでの生産を開始。

1956

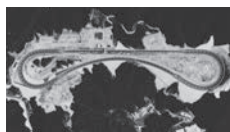
デンソーの源流となる社是の制定
創業の精神を将来にわたり守り育てるために制定。

1961



品質管理の最高権威であるデミング賞を受賞
受賞に向けた社員全員参加での取り組みが、今日も続く「品質第一」の思想や風土の礎となる。

1984



額田テストコースを開設
部品メーカーとしては早くからテストコースを開設。カーメーカーに匹敵する評価施設は、お客さまの期待を超えた製品性能や品質保証のため。

1991

基礎研究所を設立
5～20年先を見据えた将来技術の研究開発を実施。現在の研究分野は、半導体材料からオイル産生微細藻類に至るまで、多岐に渡る。

2004

デンソースピリット
1949年の創業以来培ってきた価値観や信念を明文化し、世界中のデンソー社員で共有したもの。
クルマ社会や人々に貢献する原動力や競争力となる、先進、信頼、総習・総力の3つからなる行動指針。

1996

社名を株式会社デンソーに変更
真のグローバル企業を目指し、社名から「日本」を取り、「株式会社デンソー」に変更。

2017

デンソーグループ2030年長期方針を策定
「地球に、社会に、すべての人に、笑顔広がる未来を届けたい。」をスローガンとして掲げる。

2015

グローバルな研究開発体制の構築
デンソーは世界中（日本、アメリカ、ドイツ、中国、タイ、インド、ブラジル）にあるテクニカルセンターを拠点に、社内外の枠を超え、カーメーカー、研究機関、大学等と連携し、最先端の技術、製品の開発を推進。

2016

グローバル共通人事制度
本社および海外グループ会社を含めた幹部層約2,300人を対象に、グローバル共通人事制度を導入。
個人の発揮能力にフォーカスした世界共通の等級を導入。世界中の人材が本社を含めたグローバル全体の中でキャリアを描くことを可能に。

Present

数字で見るデンソー

全従業員数

16万人

連結売上収益

7.1兆円

世界初製品

180以上

特許保有件数

3.9万件

技能五輪国際大会
総獲得メダル数

77個

グローバル拠点

35の国と地域

海外売上比率

60%

2024年3月31日現在

Future

未来への思い

環境・安心分野で
究極の「ゼロ」を
目指す

CO₂±ゼロ

交通事故
死亡者ゼロ



環境

Green

2035年度カーボンニュートラルを目指す

デンソーはこれまでの環境への取り組みをさらに進めることで、2035年度という近い未来でのモノづくりにおけるカーボンニュートラルの実現を目指します。そのために、グリーンイノベーション基金*なども活用しながら、「モノづくり」「モビリティ製品」「エネルギー利用」の3つの領域で取り組みを進めています。

*グリーンイノベーション基金：グリーン成長戦略において実行計画を策定している重点分野で、政策効果が大きくかつ社会実装までを見据えて長期間の継続支援が必要な領域に対するNEDOによる支援施策

モノづくり

モノづくりにおける完全なカーボンニュートラルを達成

太陽光などの再生可能エネルギーを利用し、また製造工程を効率化することで、CO₂排出量を減少させていきます。さらに生産の過程で発生するCO₂は回収し、エネルギーとして再利用することで、モノづくりにおけるクレジットなしでの完全なカーボンニュートラルを目指します。



モビリティ製品

クルマの電動化に貢献し、CO₂を可能な限り削減

電動化製品の進化により、HEV・BEV・FCEVなどの電動車普及に貢献します。また、自動車業界で培った電動化技術を空のモビリティにも応用し、全方位でCO₂排出量を大きく減少させます。



エネルギー利用

再エネを有効活用する技術を開発・普及し、エネルギー循環社会を実現

場所や時間の制約なくエネルギーを高効率に「ためる」「もどす」技術確立し、広く普及させることで、エネルギー循環社会の実現に貢献します。



TOPIC 環境

カーボンニュートラルの実現に向けて、CO₂を減らしていく脱炭素に加え、排出されるCO₂を回収し再利用する「カーボンリサイクル」への注目が集まっています。デンソーはこのCO₂回収を「どこでも」「効率よく」実現するために、小型で高効率なCO₂回収システムの開発と実装を進めています。

「どこでも」「効率よく」CO₂回収できるシステムを開発

モビリティ分野で培った技術を活かして、小型で高効率なCO₂回収システムの実現を目指しています。濃度の低いCO₂を効率よく回収でき、場所を選ばず設置できる小型システムが実現できれば、ビルの屋上や家庭など、より身近な場所でのCO₂回収が可能になります。



デンソーの強みを活かしたシステム開発

モビリティの技術を活かして、「電界式」と呼ばれるCO₂回収技術を開発しています。「電界式」は、温度の上げ下げではなく、電圧の切り替えてCO₂を回収する方式です。回収に必要なエネルギーを少なくすることができただけでなく、加熱や冷却のための機構が不要なため、他のシステムに比べ、システムの小型化が可能になります。

CO₂が活用される未来

食品加工などの直接利用以外にも、回収したCO₂を別の用途でリサイクルすることも見据えています。樹脂などの化学品として使用する、都市ガスなどの代替燃料として利用する、鉱物に変換して活用するなど、CO₂の利用は様々な可能性が期待されています。たとえば、安城製作所のCO₂回収の実証プラントでは、回収したCO₂と太陽光由来の電力で生成した水素からメタンを合成し、工場の熱源として再利用する実証も進めています。



安心

Peace of Mind

社会に「安心」を提供するリーディングカンパニーを目指す

人々の幸せに貢献する企業を目指すデンソーにとって、事業活動を通じた社会課題の解決により、社会に「安心」を提供することは使命でもあります。社会に「安心」を提供するリーディングカンパニーとなるべく、安心の領域でデンソーが貢献する3つの柱を以下の通り定義しました。

交通事故 死亡者ゼロ

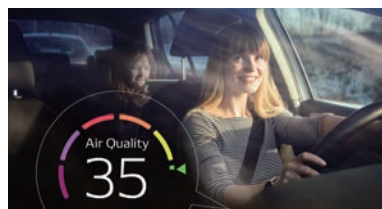
「深み」と「広がり」の取り組みを通じ、安全製品を普及させ、交通事故死亡者のいない自由な移動を実現「交通事故死亡者ゼロ」を目指し、技術の先端をひた走る「深み」と、多くのクルマに安全製品を普及させる「広がり」の二方向で取り組みを進めます。「深み」では、安全製品をさらに進化させ、より多くの先端モビリティへの搭載を実現。「広がり」では、価格面でも魅力のある安全製品の実現と後付け製品の拡充を進めることで、より広く安全製品の普及を推進します。



快適空間

空間に対する技術を高め、心安らぐ快適な空間を創出

自動運転の進展に伴い、クルマはただの移動手段ではなく「移動できるプライベート空間」としてのニーズが高まっています。デンソーは、クルマの環境を進化させることで、快適空間をつくります。



働く人の 支援

モビリティ領域で培った技術を活かし、人を支援し、人の可能性を広げる社会を構築

様々な業界での労働人口減少は、大きな社会課題の一つです。デンソーは自動化やICTなど、モビリティ領域で培った技術を活用することで、働く人を支援し、誰もが安心してチャレンジできる社会を実現します。



TOPIC 安心

安全製品の開発や、快適な空間を実現するサービスの提供、さらに車載領域で培った技術の活用に取り組んでいます。

事故シーンカバー率の向上に向けた画像センサーの広角化

車両周辺の歩行者や自転車を認識し、安全運転支援に貢献する製品である画像センサーの検知角度のさらなる広角化を実現しました。道路脇からの飛び出しによる交通事故は、日本では全歩行者の交通事故のうち約3割を占めるともいわれています。このような背景も踏まえ、デンソーは画像センサーのさらなる広角化に挑み、検知角度128度（他社比+28度）を実現しました。広角化により、低速走行時の横断自転車の検知性能が向上し、交差点周りなどでの飛び出し事故の防止に貢献します。



乗員の膝元を温める輻射ヒーターの新開発

輻射とは、高熱の物体から発せられる赤外線によるエネルギーのことです。輻射ヒーターは、温風ではなく100℃まで上昇した製品表面から発せられる遠赤外線で直接乗員の膝元を温めます。ヒーター表面からの輻射熱で乗員だけを効率的に温め、ヒートポンプシステムと併用することで、車両全体の空調エネルギーを低減し、暖房使用時の航続距離延長に貢献します。



災害時におけるICT活用の推進

災害発生時、効率的な災害応急対策や、災害復旧および復興を目指し、ICTを活用した体制づくりやシステム構築に向け、鹿児島県霧島市と連携協力に関する協定を締結しました。デンソーは、当社の地域情報発信システム「ライフビジョン」を活用した霧島市の防災アプリ「きりしま防災・行政ナビ」の利活用およびシステム開発などにより相互連携を進めます。



事業の概要

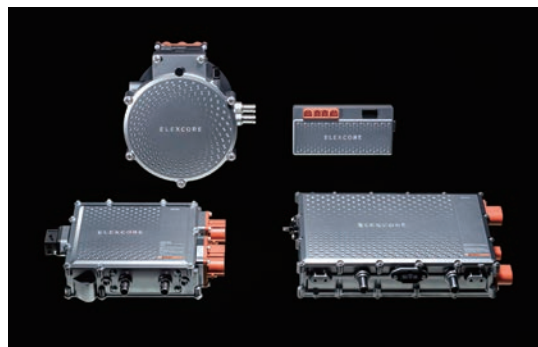
デンソーでは、モビリティを中心とした幅広い領域において7つの事業を展開しています。将来社会に新しい価値を生み出していくための事業ポートフォリオを構築し、それぞれの事業における創出価値の最大化に向けて取り組んでいます。また、変化の激しい事業環境においても社会のニーズを捉えた製品・システムを提供し、持続的成長を実現するために、事業ポートフォリオの入れ替えを重点戦略として進めています。

セグメント		貢献分野	売上収益（比率）
車載事業	エレクトリフィケーションシステム	環境安心	1兆2千億円 (17.4%)
	パワートレインシステム	環境	1兆5千億円 (21.3%)
	サーマルシステム	環境安心	1兆7千億円 (24.2%)
	モビリティエレクトロニクス	環境安心	1兆9千億円 (27.2%)
	先進デバイス	環境安心	4千億円 (5.9%)
非車載事業	FA・社会ソリューション フードバリューチェーン	環境安心	1千億円 (2.0%)

エレクトリフィケーションシステム

環境

安心



電動化製品の普及により、カーボンニュートラルに貢献
あらゆるモビリティのエネルギー最適化、
市場浸透に適した製品を提供します。

カーボンニュートラルに貢献する電動システムを提供するため、
モビリティに欠かせない主要製品の高性能化や小型化、省燃費を
実現してきました。今後は、デンソーの幅広い事業領域を活かし、
モビリティ内のあらゆるシステムや製品をつなぎ、エネルギーを
効率よくマネジメントすることで、さらなる燃費性能の向上や航
続距離の延伸を実現します。また市場浸透に適した製品を提供す
ることで、CO₂排出量削減に貢献します。

特長

システム構築力

電動化に伴い車両の環境性能向上の重要性はますます高まっています。市場・お客さまニーズ
から車両の走る・曲がる・止まる・快適機能を最適に統合するシステムを提供します。その中
心部である電駆動システムの構成部品をすべて有しているデンソーは、ハードウェアの使い
方・使われ方を熟知し、システムトータルで性能や信頼性を向上させる「システム構築力」で
多様化する市場のニーズに応えます。

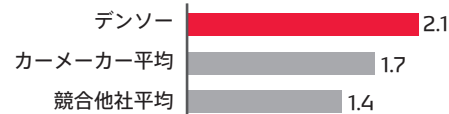
基盤技術力

約70年前に電気自動車を開発後、祖業となる電装品事業の核となる巻線技術や、半導体内製
化へ挑戦。その中で築いてきたエレクトロニクス技術を使った電力変換、またカーエアコン、
ラジエーターで積み上げた熱マネジメントなど、電動化の基盤技術を進化させてきました。グ
ローバルトップの技術的価値*に裏付けられたコンポーネントの基盤技術をより小型化、高効
率に進化し続けることで、品揃えの拡充に貢献します。

モノづくり力

安城製作所内に設立した「電動開発センター」では、併設する電動化工場の量産ラインでCO₂
循環プラントやCO₂排出を抑制する省エネ環境ラインの実証を進めるなど、次世代の製造テク
ノロジーをスピーディかつ効率的に開発・導入しています。安城製作所と広瀬製作所を電動化
領域のグローバルマザーとし、日本を含め世界19カ国に約50拠点を構え、世界中のお客さま
に高品質な製品を供給しています。

技術的価値(当社調べ)



* 技術的価値 (TR:Technology Relevance) : LexisNexis®PatentSight®を用いて算出。TRは、特許の被引用件数に
基づき、同年に出願された同技術分野の特許と比較して引用される頻度 (被引用件数) の高さで算出される指標。被
引用件数、出願年、技術分野の3つの要因によって相対化を行うため、全特許のTechnology Relevanceの平均は「1」
に近い値になる。算出条件として、日本国特許庁が提供するグリーン・トランスフォーメーション (GX) 技術区分に基
づく中区分gxBO2「高効率モーター・インバータ」の検索式を参考に検索範囲を決定。自動車産業の企業のうち、特許
ファミリー件数上位10社を比較。

パワートレインシステム

環境



クルマ本来の走るよこびと環境性能の両立。
その背反する課題へのソリューションを提供します。

地球環境への負荷を最小限にとどめ、燃料多様化や年々強化され
る規制への対応をサポートし、高品質なシステムとコンポーネン
トを供給するとともに、新たな価値創造・提供にも努め、社会に
貢献します。

特長

パワートレインの進化を
世界初製品で
リードしてきた研究開発力

クルマの環境性能の追求を通じ、ディーゼル内燃機関用の燃料噴射製品「コモンレールシステ
ム」などの様々な世界初製品を量産化してきました。現有のコア技術と開発力は、水素やバイ
オ燃料活用といったカーボンニュートラルなパワートレインの選択肢拡大にも応用することが
できます。

クルマが安心・安全に
「走行」できる、
信頼性の高いモノづくり技術

クルマの重要機能である「走行」を担うため、ミクロン単位での高難度かつ精密な加工、高速
組付技術や、材料調製から成形・焼成まで一貫して対応できる信頼性の高いモノづくり技術を
磨き上げてきました。長年培ってきた技能やモノづくりのノウハウと、ロボット・AIなどの最
新技術やデジタルを融合し、さらなる技術深化を図ります。

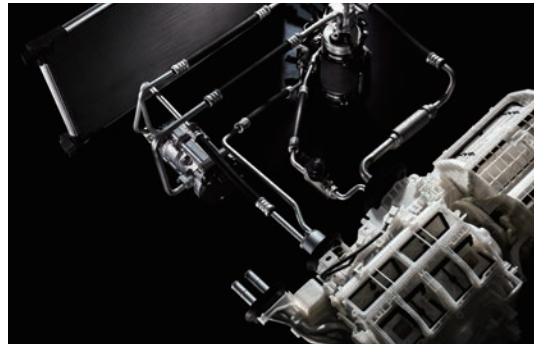
パワートレインに
精通する人財が、有機的に
連携できる組織力

過酷な使用環境に耐え、厳しい環境規制をクリアできるクルマをカーメーカーとともにつく
り出すため、多岐にわたる要素技術・技能それぞれのプロフェッショナルが車両視点で連携し、
システムからコンポーネントまで通して専門性を発揮できる高い組織力を備えています。

サーマルシステム

環境

安心



モビリティ社会のあらゆる熱課題を解決し、地球もヒトも心地よい社会を実現します。

カーボンニュートラル社会・CASE時代の到来という大きな変革期に直面する自動車業界。そんな中、デンソーは、グローバルNo.1のサーマルシステムサプライヤーとしての強みを最大限発揮し、熱マネジメントシステムによりBEVの価値向上・安心快適な車室内空間を実現し、未来の社会づくりに貢献します。

特長

熱マネジメント技術

約2,400の特許数（競合比約1.5倍）と世界初製品に裏付けられたデンソーの熱マネジメント技術は、創業以来冷却・冷暖房製品を通じて積み上げてきた独自の強みです。今後、エンジンの熱を利用するICEから熱源のないBEVにシフトすることで、車両内の熱を効率よく操り、ムダなく活用する熱マネジメントへのニーズはさらに増していきます。

多様なお客さまとの信頼関係

主要製品であるHVAC、コンプレッサーはグローバルシェアNo.1を堅持、トヨタ自動車をはじめとする日系カーメーカーのみならず、欧米系・中華系カーメーカー、商用・農建機メーカーまで、幅広いお客さまと信頼関係を築き上げてきました。多様なお客さま網と世界各地9カ所に設置したテクニカルセンターを通じ、今後も世界中の技術トレンド・ニーズをつかみ、熱マネジメント技術によるソリューションを提供していきます。

グローバルサプライチェーン

多様なお客さまへの納入責任を果たすため、当事業グループは世界26カ国50カ所以上の生産拠点を有します。現地調達の促進や地域に応じた設備合理化など、現地に根付いたモノづくりにより地域最適コストを実現しています。一方で有事の際には、グローバルの供給網と標準化された製品群による地域をまたいだ生産バックアップが可能です。今後も事業ポートフォリオ変革に伴う生産再編を通じ、全世界で供給網を維持・強化していきます。

モビリティエレクトロニクス

環境

安心



「すべての人が安心して快適に移動できる社会（Quality of Mobilityの向上）」を実現します。

CASEの進展によって引き起こされる社会の進化と変化およびユーザーニーズを的確に捉え、エレクトロニクス技術（センサー、半導体、ECU）とソフトウェア技術で時代に適応した製品を投入し続けることによって、カーボンニュートラルと交通事故死者ゼロの実現に貢献していきます。

特長

クルマ全体視点からの大規模統合システムの実現力

CASE時代の電子システムへのニーズは、パワートレイン、ボデー、シャシー、コックピット、ADASなどの単一領域の制御システムに加え、それらを協調させた大規模統合システムへと進化しています。デンソーはこれらすべてのシステムを手掛けてきました。その幅広い技術力でクルマ全体視点の魅力ある製品を実現します。

車載製品で培ってきた信頼性と先進性を備えた製品の開発力

車載製品は厳しい環境と動作制約のもとでの高い品質と性能が要求されます。クルマの電子化が始まった当初から長年にわたって車載電子製品の事業活動を続けてきたデンソーには、そこで積み上げたクルマの知見があります。その知見と最新のエレクトロニクス、ソフトウェア技術を融合させ、競争力ある製品を開発します。

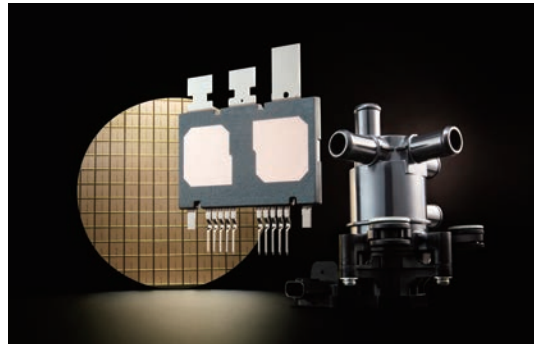
グローバルネットワーク

デンソーには、世界中のカーメーカーとともに数々の難関を乗り越えて築き上げてきた人的資産、知的資産、グローバル生産体制があります。それらを強みとして、CASE関連技術を磨いて、様々なソリューションをお客さまに提供し続けることで、環境にやさしく、安心・安全なモビリティ社会の実現に貢献していきます。

先進デバイス

環境

安心



モビリティ領域にとどまらず、
社会とお客さまの抱える課題を
解決する事業を創出・拡大していきます。

技術軸ではなく、社会とお客さまへの貢献を軸に再編された組織として、センシング・アクチュエーションの連携と、垂直統合の強みを活かした半導体によるシステム価値向上を推進します。これらを通して、新たなデバイス・システムの創出や電動化市場の拡大に対するQCD（品質・コスト・納期）全方位での信頼獲得を目指します。

特長

センシング&アクチュエーションによる
新たな価値創出力

デンソー内で半導体（脳）、センシング（目）に加え、アクチュエーション（手・足）のコア技術を融合し、新しいデバイスやシステムを柔軟な発想で創出することで、お客さまの「あったら良いな」を実現する課題解決型の開発を可能にします。

半導体の内製に加え、社外生産委託や
パートナー連携を牽引する
リーダーシップ

電動化市場の拡大に向けて、世界初技術を搭載したキーデバイスとなるSiおよびSiCパワー半導体を内製するだけでなく、供給基盤とコスト競争力の強化に必要なサプライチェーンを構築しています。

新領域製品の変種変量に耐える
高い生産技術力とそれを支える現場力

人財育成や若手抜擢を通じて競争力ある新領域製品の応用範囲を広げます。同時に、新製品ゆえに起きうる数量変動に対して、ラインの形・場所を変えて常に最適編成・最適配置できる生産システムを構築すべく、デジタルツイン・協働ロボットを活用します。

F A ・ 社会ソリューション

環境

安心



モノづくり産業の生産性向上と
社会生活の質向上に貢献します。

環境面における「カーボンニュートラルなモノづくり」、安心面における「人の可能性を広げる社会構築」を事業の理念と掲げ、お客さまの困りごとに真摯に向き合い、お客さまにとってのベストな解決策となるソリューションを提供することで、産業・社会の発展に幅広く貢献していきます。

特長

グローバル130工場の製造現場で
徹底的に磨き上げてきた生産財

自動車部品生産ラインで磨き上げてきた高品質・高耐久な設備と、ロボットやセンサーなどコアなFA機器を用いて、機器単体から工程・モジュール単位へと領域を広げながら、産業・社会の生産性向上に貢献します。

70年以上にわたりデンソー製品を
支えてきたモノづくりのノウハウ

フレキシブルでムダのないモノづくりのノウハウと自動化技術（リーン・オートメーション）を用いて、労働力不足・カーボンニュートラル・DXといった製造業が直面する深刻な課題を解決します。

デンソーが開発したQRコードを用いた
安心・安全な社会ソリューション

国際基準（ISO/IEC18004）を取得した、2000年以降も進化を続けるQRコード®と、その読み取り技術を用いて、今後は外部アイデアも取り入れながら、新たな領域・用途に向けた価値を創出します。

フードバリューチェーン

環境

安心



技術と発想で新たな価値を提供し、
すべての人が安心・安全に暮らせる社会に
貢献します。

人々の暮らしに欠かせない食において、パートナーとともにフー
ドバリューチェーン全体を見据え、「いつでも、どこでも、誰でも、
いつまでも」食の安心・安全を届けるソリューションを世界のあ
らゆる地域に提供していきます。

特長

担い手不足や気候変動に対し、
安定的に栽培できる施設園芸ハウス

クルマで培ったモノづくり技術を農業生産と融合させることで、農作物が安定して栽培できる
環境を空調技術で支えます。また、あらゆる人が働きやすい環境になるように自動化技術を導
入し、生産性が高く、持続的に成長できる施設園芸ソリューションをグローバルに提供します。

ドライバー不足や
配送多様化に対応した、
小型モバイル冷凍・冷蔵機

クルマで培った熱制御技術を活用し、従来の車載用冷凍機を小型化・軽量化・バッテリー駆動
で持ち運び可能にし、一般ドライバーや乗用車による柔軟で多様な小口配送を実現します。ま
た、エンジンやドライアイスを使わずCO₂排出量を低減した小型モバイル冷凍・冷蔵機を提供
します。

変化する食流通ニーズに応じた、
新たな流通DXソリューション

製造現場で培ったQRコード[®]・RFID技術を活用し、多様な食品情報をデジタル化することで、
消費者の安心・安全ニーズに応える生産から販売までの食流通情報の見える化に取り組みます。
さらに、流通の需給最適化や在庫適正化につながる、一気通貫の食流通プラットフォームを提
供します。

新たな価値を生む基盤

強固な事業基盤

デンソーの事業活動を支えるのは、これまで築き上げてきた強固な基盤で、一朝一夕では模倣することができない当社の優位性です。お客さま、サプライヤーなどのビジネスパートナーをはじめとする多様なステークホルダーとの関係、そしてグローバル約16万人、約200社の叡智はすべての事業活動の原動力であり、これらの深化と拡大により、さらなる成長を実現します。



新たな価値を創造する人財

「最高の製品は、最高の人によってつくられる」という考えのもと、デンソーは人財を最も重要な経営資源と位置付け、これからのデンソーを牽引するリーダーや高度な技術・技能者の育成に取り組んでいます。



ビジネスパートナーとの相互発展

貢献領域がクルマ以外にも拡大する中、これまで培ってきた信頼を軸に、デンソーの強みとパートナーの強みを掛け合わせ、誰も見たことがない新たな価値を実現できるよう、連携の強化を進めています。

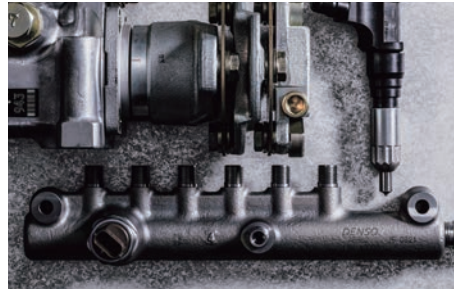


世界中の人々へ価値を届ける

地域ごとのニーズやトレンドを適時・的確に把握し、それを研究開発やモノづくりに活かすべく、世界各地に生産・開発・営業拠点を設け、全社員が一丸となってビジネスを展開しています。

先端研究開発

デンソーは、社会のニーズを的確に捉えることで、世界初・世界一にこだわった競争力のある製品を多数創出し、モビリティ社会へ貢献してきました。社会課題の複雑化や価値観の多様化が進む中、モビリティから社会全体へと貢献領域を拡大させるべく、「環境」「安心」の理念を軸に重点領域を定め、未来を見据えた技術企画や、研究開発体制の強化に取り組んでいます。グローバルに展開するテクニカルセンターやラボ、研究機関や大学など、社内外の枠を超えた連携により、今後も新たな価値を生み出していきます。



180以上の世界初製品を生み出す

「新しい価値の創造を通じて人々の幸福に貢献する」ことを基本理念として、デンソーは社会の変化を鋭く捉え、創業以来世界初にこだわった製品開発を行ってきました。ガスインジェクション式ヒートポンプ、コンモレール、ミリ波レーダー、エジェクタなど180以上の世界初製品を開発し、成長の原動力としてきました。



世界7極のテクニカルセンターとイノベーション震源地のラボ

デンソーは、世界7極にテクニカルセンターを設置。また、カナダ・イスラエル・シリコンバレーなどイノベーションの震源地にもラボを構えています。デンソーは、多様化する地域のニーズをいち早く開発に取り込み、競争力ある製品とし、お客さまに提供する体制を構築しています。



未来のモビリティ社会を予測し先回りする先端研究

先端技術研究所は、1991年の開設以来、「革新技術の創出による先進的なクルマ社会への貢献」を使命とし、半導体、エレクトロニクス、材料、AI、人間工学などの先端技術を先導しています。技術と技能の融合、産官学や事業パートナーとの連携により、社会課題の解決につながる革新技術を創出しています。

三位一体の システム提案力

デンソーは、お客さまのニーズに応え価値ある製品・サービスを社会に提供すべく、時代に先駆けた事業ポートフォリオの最適化を進めてきました。創業から取り組んできたメカトロニクス領域に始まり、エレクトロニクス、ソフトウェアと領域を拡大させながらそれぞれの領域を磨き上げ、最適なバランスで組み合わせることで、コンポーネントの枠組みを超えた全体システムの最適解での提案が可能となり、他社との差別化を実現することができます。



期待を上回る価値を提供

高性能・高信頼性の製品・サービスはもちろん、グローバルなお客さまとの信頼関係を軸に、お客さまとその先のエンドユーザーのニーズや将来構想をタイムリーかつ的確に理解することで、車両開発の早い段階から参画・提案を実施し、時にはお客さまの中に入り込み、ともにクルマをつくり上げていきます。CASE時代でクルマのあり方が変わる中でも変わることのない「デンソーらしい価値」を実現します。



総合システムメーカならではの実現力

創業当初から取り組んできたメカ領域のみならず、デンソーはエレクトロニクス・ソフトウェア領域に50年以上携わっています。これまで、メカ・エレクトロニクス・ソフトウェアの3領域の技術を組み合わせ、次世代インバータ、先進安全システムなどでモビリティ社会の発展へと貢献してきました。幅広い製品ラインナップや社会実証を積み重ねることが、それぞれの技術を磨き上げ、世界一のシステム実現の礎となります。



異なる技術を組み合わせ、実装する

世界中にいるメカ・エレクトロニクス・ソフトウェアの領域のプロ人財が各地域の最先端技術を吸収し、実際の使用環境下（気温、使われ方など）での製品評価・テストを徹底することなどを通じて、グローバルに還元します。各拠点の技術者が地域の先進技術を取り込み、お客さまや他業界も含めてグローバルで連携しながら技術を進歩させることで、世界最先端の技術・製品を世の中へ生み出しています。

高効率・ 高品質な モノづくり

デンソーは、創業以来一貫して内製技術にこだわり、設備、生産ライン、素材、加工方法までも自社で設計・製造しています。このようなモノづくりへのこだわりにより、先述の研究開発で構想した世界最先端技術を製品として形づくり世の中に届けてきました。また、自前の生産技術によって、生産ラインの高速・高稼働化やコンパクトな設備の開発、物流・検査のスリム化などを図り、近年は、製造現場で長年蓄積した知見をデジタル化し、形式知として活用しています。これらの取り組みにより、高効率・高品質なモノづくりを実現し、製品に競争力と付加価値をもたらしています。



世界初・世界一製品の量産を実現させる

1,000分の1mmにこだわる世界トップクラスの微細な加工や、生産効率も品質も向上する組付けライン。最先端の生産要素技術・加工技術・計測技術の研究や、それらを応用した生産ライン・システム開発が、世界最高レベルの製品性能と品質を支えています。



世界中の仲間を情報でつなぐ

人、モノ、設備から得た多くのデータを分析し、「設備不具合の予兆」「熟練者のノウハウ」などの有益な情報に変換、その情報を、欲しい人に、欲しい時に、欲しい形で提供することで、改善活動の加速や人の成長に貢献しています。グローバルで130の工場をつなぎ、グループ全体での生産性向上を実現しています。



1個の不良、1秒のロスにこだわる

工場長が先頭に立ち、全員参加で取り組む「ExcellentFactory活動」。工場全体で最適化を図る改善活動や、ライン立ち上げ前の入念な検証などを進めることで、問題点が分かりやすい工場をつくり、その顕在化した問題点を全員で改善し続けることにより、改善に強い人財を育成し、世界トップクラスの競争力を実現します。

サステナビリティ 経営

デンソーは、サステナビリティ経営の推進にあたり、将来の社会課題を「2030年長期方針」や「優先取組課題」に落とし込み、事業活動を通じてその解決に取り組んでいます。従来注力している「環境」「安心」の提供価値を最大化することに加え、「共感」を掲げ、様々なステークホルダーの方々に共感していただける新たな価値を社会に提供していきます。



受け継がれるサステナビリティ経営

社是、特に「最善の品質とサービスを以て社会に奉仕す」を原点として、デンソーは創業当時から事業を通じて社会課題を解決することへの挑戦、つまり、サステナビリティ経営を実践し、「環境」「安心」を軸として社会に新たな価値を提供し続けてきました。時代が変わってもこの社是の精神を受け継ぎ、サステナビリティ経営を実践し続けるため、「デンソーグループサステナビリティ方針」を定めるとともに、社会課題を当社の2030年長期方針、優先取組課題（マテリアリティ）に落とし込み、事業活動を通じてその解決に取り組んでいます。

サステナビリティ経営の推進体制

経営戦略本部を担当する役員を統括責任者として、経営戦略本部が全社のサステナビリティ経営推進機能を担っており、方針や活動計画の立案、各部門の活動支援・フォローアップ、社内外コミュニケーションなどを行っています。サステナビリティ経営の方向付けや全社活動状況のフォローアップなどは、取締役会監督のもと、会社の公式会議体で審議・報告を行っています。また、個別のサステナビリティテーマについては、主管部門が各専門委員会で審議を受け、関係部門と連携して活動を推進しています

事業の概況

会社概要

2024 年 3 月 31 日現在

社名	株式会社デンソー
設立	1949 年 12 月 16 日
本社所在地	〒 448-8661 愛知県刈谷市昭和町 1-1
資本金	1,875 億円
売上収益 ^{*1}	連結：7 兆 1,447 億円
営業利益	連結：3,806 億円
当期利益 ^{*2}	連結：3,128 億円
従業員数 ^{*3}	連結：162,029 人 単独： 43,980 人
連結子会社数	193 社 (日本 57、北米 23、欧州 36、アジア 72、その他 5)
持分法適用関連会社数	70 社 (日本 22、北米 8、欧州 7、アジア 29、その他 4)
事業年度	4 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで

^{*1}1. 外部顧客に対するものです

^{*2}2. 親会社の所有者に帰属

^{*3}3. 就業人員（連結会社への出向者を除き、連結会社からの出向者を含む）であり、臨時雇用者数は含んでいません

主な拠点

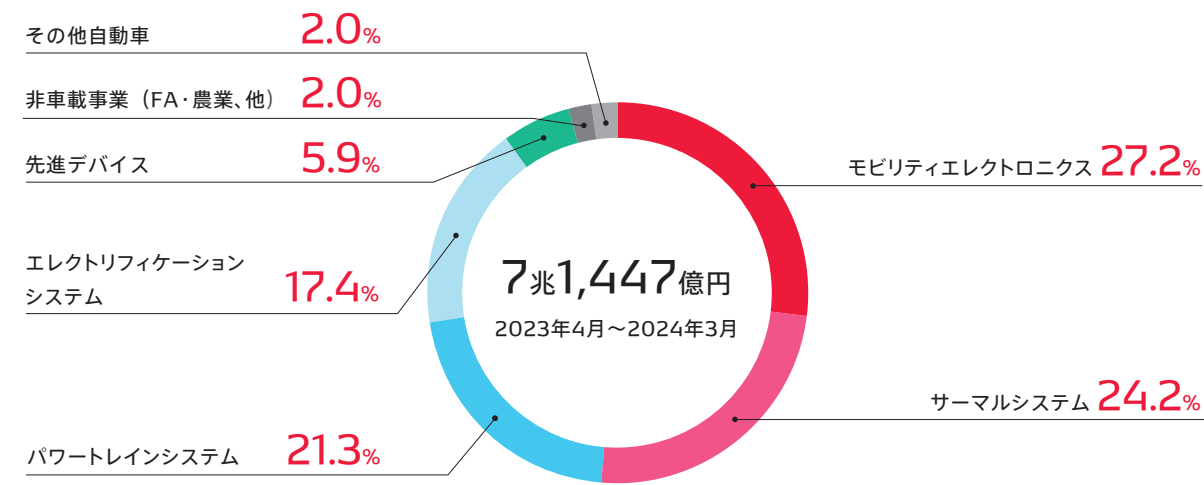
2024 年 3 月 31 日現在

本社・工場・研究所	従業員数	主な事業内容
本社	12,228	-
安城製作所	4,984	スターター、オルタネーター、インバーター、モータージェネレーター、パワーステアリングモーターの製造
西尾製作所	6,341	カーエアコン、ラジエーター、電子制御式ディーゼル・ガソリン燃料噴射装置の製造
高棚製作所	2,767	メーター、ディスプレイ、ミリ波レーダー、画像センサー、パワーモジュール、各種センサーの製造
湖西製作所	3,385	ワイパースシステム、パワーウインドウモーターなどの自動車用小型モーターの製造
大安製作所	4,296	点火系製品、先進安全関係製品、動弁系製品、駆動系製品、吸排気系製品の製造
幸田製作所	3,375	半導体ウエハー、IC、電子制御製品の製造
豊橋製作所	961	カーエアコン、ヒートポンプモジュール、サーボモーターモジュール、自然冷媒 CO ₂ 家庭用ヒートポンプ給湯機の製造
広瀬製作所	1,107	インバーター、ECU、パワー半導体の製造
阿久比製作所	804	生産設備の製造
豊橋東製作所	684	ブロワーモーター、クーリングファンモーターなど自動車用小型モーターの製造
善明製作所	1,309	電子制御式ディーゼル・ガソリン燃料噴射装置の製造
先端技術研究所	257	先端機能材料、AI、人間工学などの研究
Global R&D Tokyo	125	高度運転支援、コネクティッド分野、車載電子システム分野の研究開発
Global R&D Tokyo, Haneda	194	自動運転分野の研究開発・実証
額田テストセンター	29	実車走行試験

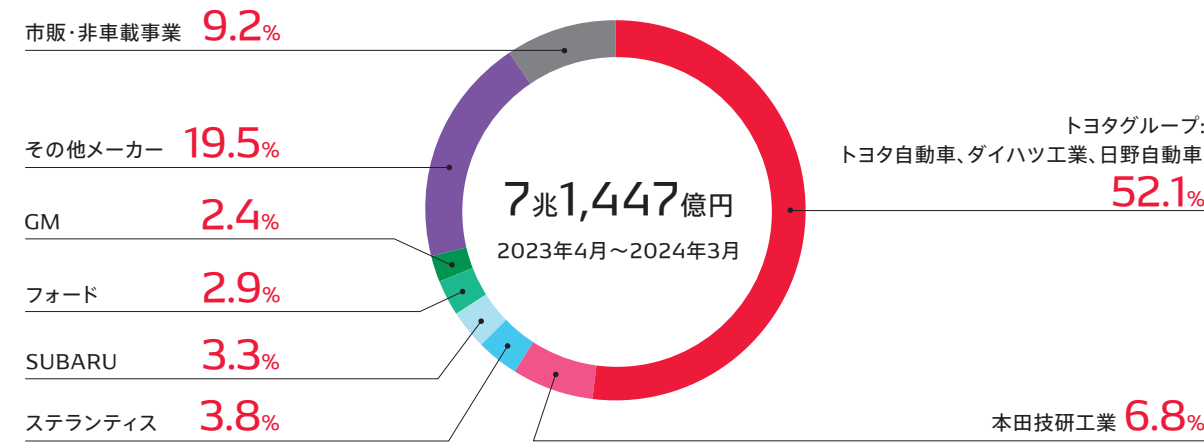
支社・支店・事業所				
東京支社	大阪支店	岩手事業所	室町事業所	D-Square 事業所
東京支店	広島支店	神戸事業所	高松事業所	
東京支店 宇都宮オフィス	名古屋オフィス	名古屋南事業所	港北事業所	

財務データ

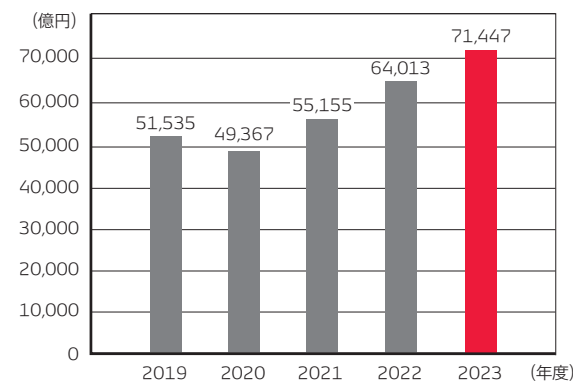
製品別売上収益



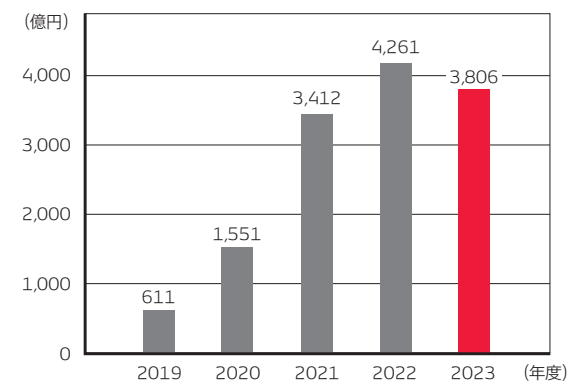
得意先別売上収益



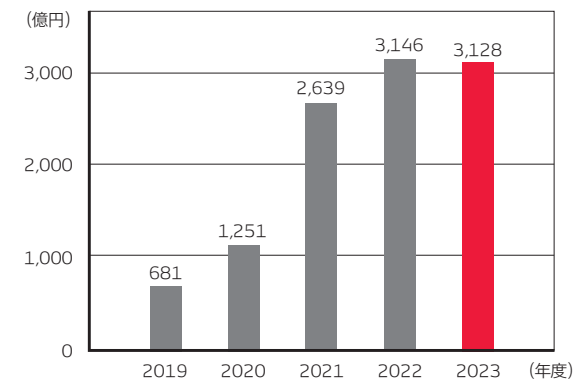
売上収益



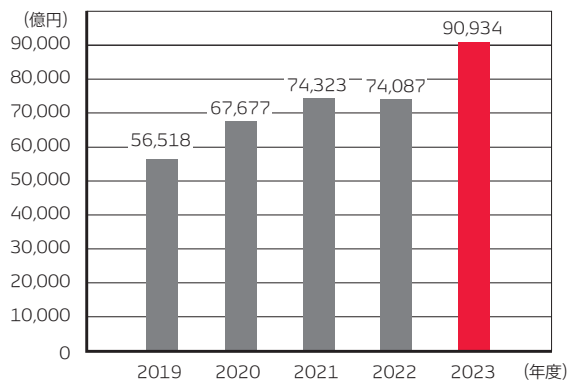
営業利益



当期利益



資産合計



グローバルネットワーク

2024 年 3 月 31 日現在



地域別売上収益 *
* 売上収益は外部顧客に対するものです。

